

第 24 回各務原市地域公共交通会議

「チョイソコ導入実証実験」への意見書に対する事務局回答につきまして

4月13日付にて書面審査をお送りしておりました標記につきまして、各委員よりいただいたご意見・ご質問に対して事務局より回答させていただきます。

他委員のご意見・ご質問及び事務局回答を踏まえて、ご意見・ご質問等がございましたら事務局（市公共交通政策室：058-383-9912）までご連絡をいただきますようよろしくお願いいたします。

Q: 鵜沼南エリアで「チョイソコ」導入が計画されていますが、ふれあいタクシーの運行は継続されるのか。継続されるとすれば、料金体系が異なりますが、どうなりますか。

A: 「チョイソコ」導入にあたり、ふれあいタクシーは運行休止となります。

Q: 土日祝日に運行をしないと判断された理由は。

Q: 土日祝日はどのようにカバーするのか。

A: 実証実験のため、まずは提供するサービスを小さく始めて、今後状況や要望等に合わせて検討をしてみたいと考えております。また、運行拡大を検討する場合は交通事業者や運輸支局、各関係機関の皆様とも協議・調整の上で慎重に進めさせていただきたいと存じます。

Q: ふれあいタクシーの利用料金は150円/回だったが、「チョイソコ」導入にあたって200円/回とされる理由は何か。

A: これまでのダイヤを廃止し、運行時間内であればいつでも予約・配車できる仕組みの導入や停留所の増設により、利便性を高める一方で、持続可能な公共交通を確保するため、受益者負担の観点より運賃を400円(65歳以上の方などは200円)と設定したいと考えております。

Q: 導入経緯に「時刻表が分かりづらい」との意見があったとの記載があるが、ふれあいタクシーで対応できなかったのか。また、須衛・各務エリアでなく、鵜沼南エリアを選んだ理由は。

A: 今回の実証実験では、ダイヤ設定の廃止に加えて停留所の増設を組んでおります。同時刻に複数の申し込みがあった場合に、最も効率的なルートや送迎順を即座に試算し、運行に反映する仕組みとして、アイシン精機株式会社の有する配車システムを活用したいと考えております。合わせて、持続可能な公共交通サービスの展開に向けて、スポンサー制度についても、同社のノウハウや他地域での実績を活用したいと考えております。

エリアの選定につきましては、医療施設や商業施設等のスポンサー候補が多いことから、鵜沼南エリアを選択したところです。

Q: ふれあいタクシーと比較し、サービスの変更点が多いので、利用者にとって分かりやすく周知を徹底する必要があると思われる。

A: ご指摘のとおり、特に利用できなくなる時間帯の周知等については可能な限り進めてまいります。新型コロナウイルスによる現在の社会情勢を鑑み、大々的な説明会や懇談会は現状できないため、まずはふれあいタクシー車内での掲示やウェブサイト、広報紙での掲載等も検討しております。

Q: 予約締切から運行までの時間が短い、停留所が多い、運賃が安い等、大いに喜ばれるはずと思う。「どうせ行けないから…」と諦めている」という人たちを一人でも少なくできると思う。

A: ご意見をいただき、ありがとうございます。高齢化が進む団地等においても、チョイソコ 事業の検討をはじめ、お出かけできる仕組みづくりとして進めてまいりたいと考えております。

Q: コロナ禍で、導入実証実験を行う平時の状態にはないため、承認はしない。

A: 社会情勢も踏まえ、ご指摘をいただきましてありがとうございます。  
導入時期に関しましては、もちろん、コロナウイルスの収束状況等を踏まえて最終判断をしてみたいと考えております。一方で、どの時点を以て平時とするかの基準が難しい部分もございます。  
導入予定時期に、緊急事態宣言等による徹底的な外出自粛や、社会情勢がひっ迫するような状況が続くような場合は、開始時期の再検討を進めてまいります。まずは令和2年10月を目途とし、どのようにも対応できるよう各協議や調整を進めてまいりたいと考えております。  
また、導入後は感染症対策も実施した上での運営に努めるとともに、状況を踏まえた実証期間の設定を検討し、あらためて協議会にてご説明させていただきます。

Q: 路線バスのような時間指定のデマンド型タクシーとは異なり、自由な時間でのデマンドであり、かつ停留所が以前より増加している。これを極めていくと通常のタクシーと同様となり、既存のタクシーを脅かす問題となり得る。

A: ご指摘の点につきましては、今後の事業実施に向けて十分に配慮させていただきます。  
実証実験による、利用実績や要望等に加えて、既存交通事業への影響やご意見等も踏まえて今後の方針について慎重に議論を進めてまいります。

Q: 導入にあたっては、岐阜バス等、既存の公共交通に対して配慮をいただきたい。

A: 今後の実証実験の進め方や展開につきましては、既存の交通事業者とも調整・協議を行い、慎重に検討を進めてまいります。

Q:非固定ダイヤ・デマンド方式による需要分散が懸念される。実証実験の動向を注視し、場合によっては複数人で乗車した際の運賃優遇(インセンティブ付与)など、相乗り率向上施策の検討が必要と考える。また、最短15分前の予約を可としていることから、格安タクシーとして誤解されないよう、広報の配慮をお願いしたい。

A:ご指摘のとおり、利用できる時間が実質増えたことにより、需要の分散並びに乗合率の低下は今後の検討事項であると考えております。運賃も含め、複数人での利用を促進するような施策についても導入後、適宜検討してまいります。

また、格安タクシーとしての誤解を招かないよう広報周知や複数人利用での促進等に努めてまいります。

Q:これまで定路線とはいえ毎日運行していたものが、平日のみに切り替える案になっている。ふれあいタクシーの利用実績を見ると、土日祝日は運行回数と利用者数のボリュームは少ないが、1運行あたりの平均利用者を見ると、平日とほぼ同程度となっている。タクシー事業者との競争などへ配慮された結果と理解はしているが、社会実験の検証を踏まえ、土日祝日への運行拡大も選択肢から排除しないようお願いしたい。

A:利用実績を踏まえて、そして何よりもタクシー業との競争を避ける形で、サービスを小さくスタートさせます。土日祝日の運行につきましても、今後のご要望や交通事業者等、関係団体との調整の上で、運行体制の在り方は検討してまいりたいと考えております。

Q:事務局が想定する実証実験の期間及び実験期間中の検証時期を示して欲しい。コロナ感染拡大が本実験に及ぼす影響も大きいと考えられるため、実験期間を長めにとる必要があると思われる。

加えて、社会情勢によっては、実験開始の延期という考えもあり得るのか。

A:実証実験の検証期間につきましては、社会情勢やご指摘を踏まえ、相当期間の設定について、交通事業者や関係機関等と調整をさせていただきます。あらためて、7月頃を目途に会議を開催し、停留所の設置状況等と合わせて、期間についても説明させていただきます。

実験開始時期につきましては、鶴沼南エリアに関しては、まずは令和2年10月を目途に進めてまいります。ただし、今後の社会情勢等が改善されない、さらなる感染拡大防止対策が必要となるような状況となりましたら、時期の見直しも検討してまいります。